



ファシリティー通信

2016年5月発行
第4号

— 主人公はあなたです —

子どもは子ども、あなたはあなた。
みんなありのままの自分でいてほしい…。

いつの時代でも、制度が変わっても、地域や年齢や障がいに違いがあっても、みんな同じ。壁にぶつかり、悩み、時に苦しむこともあるでしょう。そんな中で、頑張っているあなたへ——
自分を大切にしながら安心して笑顔で子どもと向き合ってください。
そんな思いで活動しています。

平成27年度 家族支援事業部 実施報告

実施日	内容（開催地）	参加数			ファシリテーター	備考
		会員	会員外	合計		
10/1(木)	家族支援ワークショップ (彩華園(熊谷市))	8	4	12	4	2名入会。
12/10(木)	家族支援ファシリテーター養成講座 (埼玉市民会館うらわ)	16	0	16		吉川かおり氏をお呼びしての養成講座。
2/24(水)	障害認識ワークショップ (埼玉教育会館)	21	3	24		吉川かおり氏をお呼びしてのワークショップ。 障害認識は育成会初の開催。

27年度を振り返って



26年度に続き、27年度も家族支援事業部は新井由加里部長を中心に活発な事業展開をしています。ワークショップ開催のほかに吉川かおり先生をお招きして「ファシリテーター養成講座」も開催しました。

第1回目は『家族支援』、第2回目は育成会では初めての『障害認識』をテーマに行いました。『障害認識』は難しいテーマですが、そこは、吉川かおり先生、テンポよく分かりやすく楽しい講座になりました。

家族支援事業部の本領は、なんと言ってもワークショップです。このワークには正解や模範解答などはありません。ファシリさんは、参加された方それぞれが、自分の心の中に昨日までと違う「気づき」を見出し、自分と家族の新しい明日へ踏み出せるよう、そ〜とお手伝いさせていただきます。あなたの街にもファシリさんと呼んで、ワークショップをしませんか？

ワークが終わるころには、みんな、キラキラ輝くような笑顔になっていますよ ☆彡 (ー_ー)!!
28年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。 業務執行理事 高野 淑恵

目次

1P・・・平成27年度実施報告
27年度を振り返って

2P・・・ワークショップ(彩華園)
ファシリテーター養成講座

3P・・・障害認識ワークショップ

4P・・・家族支援事業部 今後の活動について

10/1 (木) 家族支援ワークショップ (彩華園(熊谷市))



熊谷市にある「彩華園」にて、家族支援ワークショップを開催しました。

当日の参加者は12名。30代～60代のお母さん・お父さんが集まり、日ごろの悩みや経験談の話に花が咲きました。

<アンケートより抜粋>

- ・先輩ママさんやお父さんの話を聞けてとても良かったです。(30代女性)
- ・グループの方々と知り合えてうれしかったです。(60代女性)
- ・最初はどんなことをするんだろう?と不安だったけど、終わってみたら楽しくて、他の方の話が自分の今後につながると思いました。(30代女性)
- ・自分の気持ちを見つめ直すことの大切さに気づきました。(50代女性)

ワークショップに参加して・・・

まず、目的とルールの説明の後、ぬいぐるみキャッチボールによる自己紹介ゲームがスタートしました。私も突然指名されゲームに参加することになりましたが、このゲームこそが参加者の気持ちをリラックスさせ、次の学習テーマ、点検ワーク、分かち合い・終わりのワークへとスムーズに進行でき自分の思いを語り、聞くことにより気持ちを落ちつかせてくれるのだと思いました。

終了後、参加された方同士で昼食を摂りながら熱心に話をされる姿を目にし、この家族支援ワークショップを県内各地に広めていくことが必要だということを感じました。 **事務局長 加藤 憲史**

12/10 (木) 家族支援ファシリテーター養成講座

会場：さいたま市民
会館うらわ 101
参加人数：16名

今年もまた講師に吉川かおり氏をお呼びして、養成講座を開催しました！

初めての方も、そうでない方も、熱心に聞き入り「ファシリテーター」としての在り方や心構え



～養成講座に参加して～

緊張からのスタートでしたが、「なりきり他己紹介」でリラックス!! その後のグループワークも楽しく参加できました。吉川先生の講義は楽しく、学習テーマを通して子どもとの関わり方など「ドキッ」とする発見も!

参加してみて1人で悩むことはあっても話す相手、機会に困る。1人でかかえこんでしまう。共感できる場の必要性を実感しました。

自分自身を見つめ直し、子どもの成長につながるようにこの体験を活かして、同じ悩みをかかえる人にもワークショップぜひおすすめです。

ワークショップを多くの方に体験してもらえるように今回学んだことを軸にファシリテーターとして駆けだしていきたいと思います。 **北本市親の会 曾根 康乃**

2/24 (水) 障害認識ワークショップ

会場：埼玉教育会館
104 会議室
参加人数：24名
(内非会員3名)

「障害認識」という聞き慣れない言葉ですが、「障がい」や「障がいがある人」への捉え方を点検し、理解して、本人が「自分らしい暮らし」をみつけるために、本人の能力を補う方法を探すことや本人にとって分かりやすく伝えるにはどうしたら良いのかを考えることなど、まさにこの4月に施行された「障害者差別解消法」の“合理的配慮”に通じるタイムリーな内容のワークショップでした。

新井



講師：
吉川かおり 氏
(明星大学人文学部
福祉実践学科 教授)



▼わが子の「障がい」について話し合います。



▲「その人らしい暮らし」とは？「障がい」とは？

- 10:10 ワークショップの目的とルール
- 10:25 動物でひとこと紹介
- 10:35 学習テーマ1「その人らしい暮らし」と「障害」
- 10:55 点検ワーク 「わが子の性格」
「言葉の点検ワーク1・2」
- 11:50 分かち合い・終わりのワーク
- 12:00 ~昼食休憩~
- 13:00 学習テーマ2 親として「育つ」ということ
- 13:20 点検ワーク「ありがとう・ごめんね」
「選び方・決め方」
- 14:10 自己肯定感を高めるワーク
「ショーウィンドウ」「回転木馬」
- 14:45 分かち合い
- 15:00 終了



～ワークショップに参加して～

今回初めてこのようなワークショップに参加させて頂きましたが、参加する前は、「障害の認識」というテーマに漠然と難しさを感じていました。でも他の参加者の方とワークをしたり、話を聞いたり、自分も話したりする事で、たくさんの気づきを得られました。

私は12歳男子の父親ですが、ワークを通して改めて息子の事を見つめてみると、まだまだ分からない事だらけで、それ故に自分(親)の期待を過度に押し付けていた気がします。

諦め過ぎず、期待し過ぎず、本人のちょうど良い所を探していく支援。口で言うほど簡単では無いですが、今後はいつもこの事を思いながら、息子と接していきたいと思います。

今回の参加者は殆どが母親でしたが、可能であれば私のような父親にももっと参加してもらいたいと思った良いワークショップでした。ありがとうございました。

NPO 法人生活支援サービスにじ(鴻巣市) 職員 小井川 和夫

「あなたはあなたであっていい」というメッセージを親が子にどう伝えていくか？また「その人らしい暮らし」のを見つけ方は…。そして親として育つということとはなど普段スルーしているので考える良い機会になりました。

楽しく勉強ができて、かつ自分自身の日頃の考え方ややっている事が我が子にどう影響するか考える機会になりました。

ぎゅっとネット手とて 山中 真理子

いつでもどこでも誰でもできる家族支援を目指して

家族支援事業部では、毎年東西南北のブロックにてファシリテーターによるワークショップを開催しています。今年度、熊谷市にてワークショップを開催したときのこと。開催間近になってもなかなか参加者が集まらず、次第に心が焦りはじめ、会員や知人たちに片っ端から連絡を取り、参加のお願いをしたのでした。そんな成り行きで仕方なくお付き合いで参加してくれたにもかかわらず、当日はみなさん真剣に学習プログラムに集中し、グループの分かち合いでは自分の言葉で自分を語り、人の話に耳を傾けて、どの人も目をキラキラさせて生き生きと参加していたのです。さすが障がい児を生み育てた苦勞を体験したお母さんたちの自信や自己肯定感。そこから噴き出す言葉は凄いぞ！

人ってしゃべればしゃべるほど頭がクリアになり自分の考えが整理できたり新たなことに気づいたり、発見したりするんだと思うのです。だからワークショップがおわりになるころには「〇〇さんのお父さんお母さんの顔」から、「一人の男性女性として自信のある顔」になっているのです。自分を出せる場って大切ですね。

「こんなに自分を見つめなおせる機会になる家族支援ワークショップを知ってもらうにはどうしたらいいのかな？」

幸いにも、埼玉県の育成会では家族支援事業部の部員のほかに明星大学の講師でおられる吉川かおりさんの養成講座を受講している方がたくさんいます。その方たちも含めて、単会の会議等でいろいろなワークを切り取って取り入れていくなど、もっと身近に活動がちりばめられていくことで、一人一人に細やかな支援が届くのではないかと思うのです。

そこで、このような活動を各ブロックで取り入れてもらえるように、家族支援事業部として話し合い、さっそく第1回北部ブロック会議で、ブロック長の許可を受けて会議の初めにお時間をいただき、導入ワークといくつかのワークをやらせていただきました。

ブロック会議では、年に数回しかお会いする機会のない会員同士が、ワークを通し、普段は知ることはできないプライベートな趣味やマイブームなどを聞きながら、自分が思っていたイメージとは違う相手の意外な一面を知ったり、自分との共通点を見つけたりすることで親近感が生まれ、自然と話しやすい雰囲気になれたのでした。会議の空気も柔らかくなり、その後の議題にも話しやすい雰囲気を残せたと感じました。また、単会でもよく知っている会員同士がいつもと違う切り口で交流することにより、今まで以上に会員が主体的に平等に話せる場になると思います。あなたの会でも、ぜひやってみませんか？

佐藤 早苗

★ 28年度今後の予定 ★

- ・ 2/17 (金) 10:00~12:00 県民健康センター中会議室
「**家族支援講演会** (きょうだいとの関わり方・接し方)」
講師：有馬 靖子 氏
- ・ その他各市町村での家族支援ワークショップ 等々…

詳細決まり次第お知らせいたします♪

家族支援事業部メンバー 通称『ファッシー隊』

高野 淑恵 (越谷)・新井由加里 (鴻巣)・佐藤 早苗 (熊谷)・長島 幸枝 (北本)・山崎久美江 (鴻巣)

【連絡先】 公益社団法人埼玉県手をつなぐ育成会

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂 2-15-3 母子福祉会館内

Tel:048-833-0444 fax:048-833-0400 Mail:saitama@ikuseikai.jp

